

# 大分県長期漁海況予報

〔平成 26(2014)年 8 月～12 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

## 海況経過<平成 26 年 4～7 月>

### ■黒潮

黒潮は都井岬沖で2月下旬～5月上旬までやや接岸傾向となり、5月中旬に小蛇行が形成され離岸傾向となりました。5月下旬～6月中旬に都井岬沖の小蛇行が東進し、足摺岬～潮岬沖を通過し、6月上旬～中旬に都井岬沖でやや離岸で推移しました。6月下旬には都井岬～足摺岬沖で離岸傾向となりました。

### ■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月～7月は「平年並み」で推移しました(図1)。

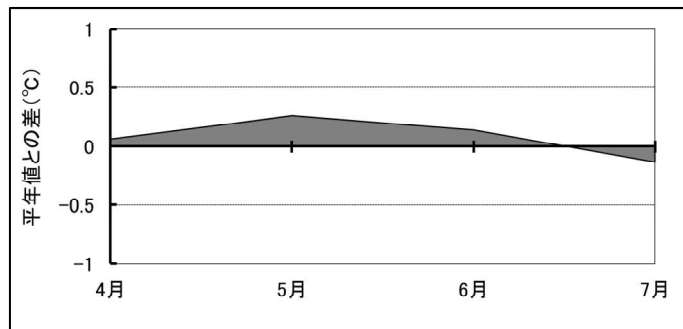


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

### ■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4月は「平年並み」、5月は「やや高め」、6～7月は「平年並み」で推移しました(図2)。

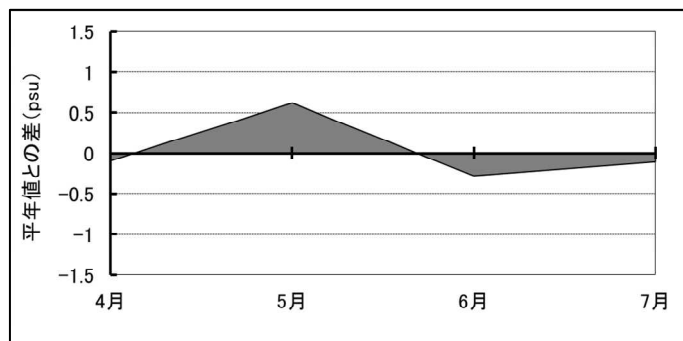


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

## 今後の海況の見通し〈平成 26 年 8～12 月〉

### ■黒潮

- ・都井岬沖では 9 月中旬に小蛇行の形成により離岸するでしょう。
- ・足摺岬では 9 月下旬～11 月中旬に小蛇行の東進により一時的に離岸するでしょう。
- ・都井岬沖では 11 月下旬に小蛇行の形成により離岸するでしょう。
- ・足摺岬では 12 月以降に小蛇行の東進により一時的に離岸するでしょう。

### ■沿岸水温

「高め」～「平年並み」で推移するでしょう。

### ■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は平成 26 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2014)を参考にしました。
- ・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区气象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では、8月の平均気温は「低め20%、平年並み40%、高め40%」と予測しており、8月は沿岸水温が高めになると予測されます。9～10月の平均気温は「低め30%、平年並み40%、高め30%」と予測されており、9～10月の沿岸水温は平年並みで推移すると思われる。

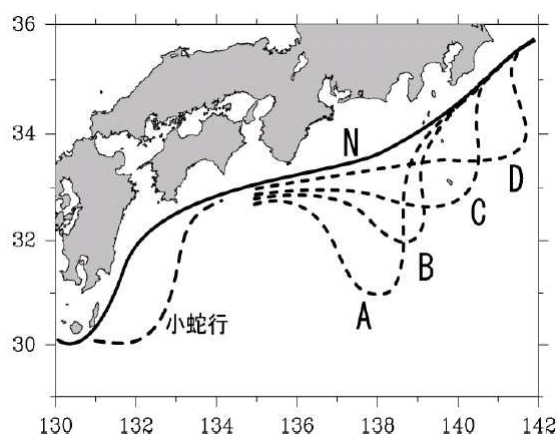


図 3 黒潮流型の分類

※上図は平成 26 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

## ■マイワシ

### 2014年4～6月の漁況経過

2014年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシは4月・5月に0トン、6月に270トンの漁獲量となりました。前年比24,909%(ただし前年は1.1トン)、1986～2013年の平均値(以下「平年」)の比7%と、前年を上まわり平年を大きく下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、6月は被鱗体長<sup>(用語解説①)</sup>10～13cm前後(いずれも0歳魚:2014年生まれ)でした。

なお、近隣海域<sup>(用語解説②)</sup>では宮崎県は前年の952%、愛媛県は前年の67,536%、高知県では前年の117%の漁獲量となっています(2014年4～6月)。

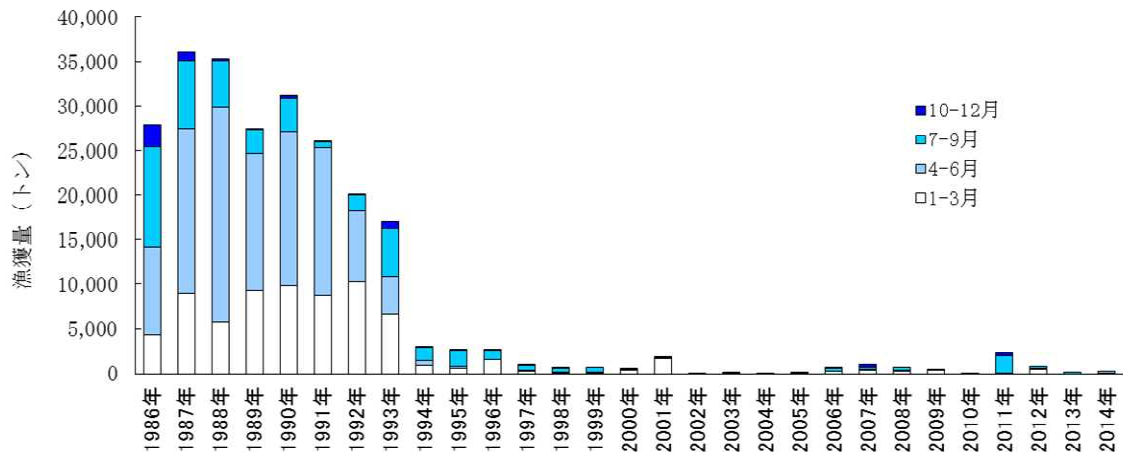


図4 マイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<平成26年8～12月>

### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2013年8-12月:106トン)



### 漁獲対象年級群及び体長:

10月は被鱗体長12～18cmの0歳魚(2014年生まれ)が主体となるでしょう。

### 【説明】

0歳魚が漁獲の主体となった6月の漁獲量が270トンと、平年までは及ばないものの(6月の平年比26%)、6月に200トンを超える漁獲は1993年以来21年ぶりでした。予測期間中は0歳魚(2014年生まれ)が漁獲の主体となるため、今後の0歳魚の来遊に期待が持てます。また、2014年7月の太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議において、マイワシ0歳魚の加入量水準は不確実ではありますが、近年においては比較的高いと判断されていることから、来遊量は前年を上回ると考えられます。

## ■カタクチイワシ(成魚)

### □2014年4～6月の漁況経過

2014年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は4月に605トン、5月に418トン、6月に760トンの計1,783トンでした。前年比234%、平年比297%と、前年・平年を上回る漁獲量となりました。4～6月の漁獲の主体は、被鱗体長10cm前後の1歳魚(2013年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の11%、愛媛県では前年の94%、高知県では前年の102%の漁獲量となっています(2014年4～6月)。

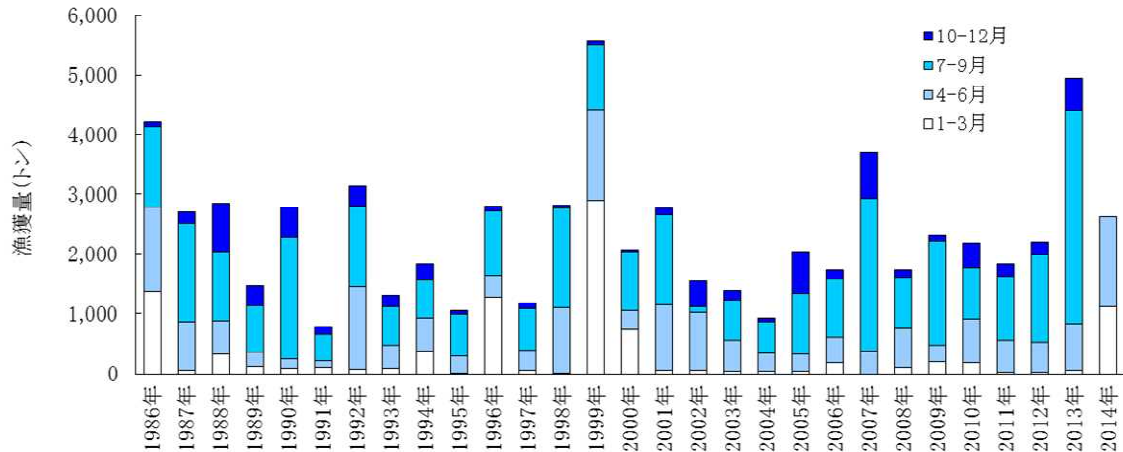


図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<平成26年8～12月>



### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2013年8-12月:2,591トン)

### 漁獲対象年級群及び体長:

期間中は被鱗体長5～8cmの0歳魚(2014年生まれ)主体ですが、8～9月は1歳魚(2013年生まれ)が混じるでしょう。

### 【説明】

1～6月の漁獲量(1歳魚主体)が前年・平年に比べて大幅に高いことから、1歳魚(2013年生まれ)の資源量水準は前年を上回ると予想されます。ただし予測期間8～12月は0歳魚が漁獲の主体となり、8～9月を過ぎると1歳魚(2013年生まれ)の漁獲割合は小さくなります。0歳魚(2014年生まれ)の資源量水準は2014年7月の太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議において、不確実性は高いものの最近10年の中で見れば低水準であると判断されていることに加え、豊後水道における2014年4～6月のシラス漁が前年を下回っていること(豊後水道における生シラス出荷量:前年比60%)から減少傾向で推移すると思われる。

これらのことから、8～9月は1歳魚(2013年生まれ)により漁獲が押し上げられる可能性があります。予測期間全体で見た場合は0歳魚が主体となるため来遊量は前年を下回ると考えられます。

## ■ウルメイワシ

### □2014年4～6月の漁況経過

2014年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は4月に0トン、5月に1トン、6月に156トンの計157トンでした。前年比133%、平年比79%と、前年を上回り平年並みの漁となりました。漁獲の主体は、9～11cm前後の0歳魚(2014年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の121%、愛媛県では前年の70%、高知県では前年の43%の漁獲量となっています(2014年4～6月)。

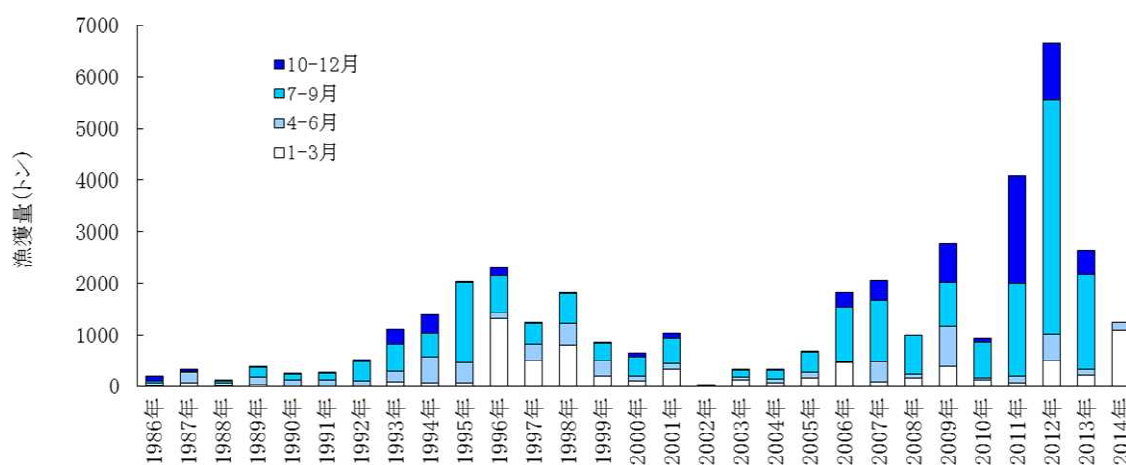


図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<平成26年8～12月>

### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並みでしょう。(2013年8-12月:2,072トン)



### 漁獲対象年級群及び体長:

8～10月は被鱗体長10～15cm前後の0歳魚(2014年生まれ)が主体となり、10～12月は15～20cmに漁獲の主体が推移するでしょう。

### 【説明】

期間中8～12月の漁獲は、2011年～2013年が1986年以来過去最高水準の漁獲であることと、その3年間の傾向から7～10月に大幅に漁獲が増えると考えられます。

漁獲の主体となる0歳魚(2014年生まれ)の資源量水準は、4～6月のまき網漁獲量(0歳魚主体)が前年を上回ったため(前年比133%)、前年をやや上回る来遊が期待できます。しかし愛媛県では4～6月の漁獲量と8～12月の漁獲量に関係が見られ、その関係から8～12月は前年の来遊量を下回ると予測していることに加え、高知県でも今後の漁獲の主体となるウルメイワシ0歳魚の加入量水準が低いと判断されていることを考慮すると、来遊量は前年並みになると考えられます。

## ■マアジ

### □2014年4～6月の漁況経過

2014年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は4月に34トン、5月に20トン、6月に16トンの計70トンで、前年比44%、平年比12%と前年・平年を下回る漁となりました。漁獲の主体は、尾叉長<sup>(用語解説③)</sup>17cm前後の1歳魚(2013年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の326%、愛媛県では前年の71%、高知県では銘柄「アジ」が前年の79%で銘柄「ゼンゴ」が前年の613%の漁獲量となっています(2014年4～6月)。

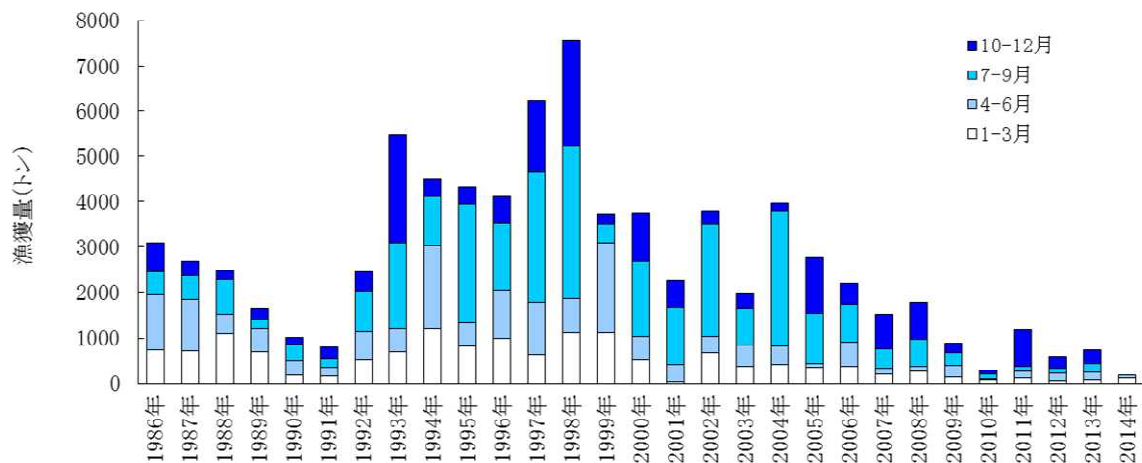


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<平成26年8～12月>

### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2013年8-12月:449トン)



### 漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長10～15cm前後の0歳魚(2014年生まれ)が漁獲の主体で、20cm前後の1歳魚(2013年生まれ)が混じるでしょう。

### 【説明】

予測期間中の漁獲の主体になるのは0歳魚(2014年生まれ)ですが、4～6月の販売システムデータによる県南定置網小アジ(0歳魚)漁獲量は8トン(前年比35%)で、前年を下回りました。また、これまでの低調な漁況経過からも、今後の来遊には期待が見込みにくいことに加え、宇和海中南部ゼンゴ漁獲量が前年比42%、日向灘南部定置アジ仔銘柄漁獲量が前年を下回るなど、近隣海域での0歳魚の漁獲が思わしくないことから、来遊量は低水準であった前年を下回ると考えられます。

## ■さば類

### □2014年4～6月の漁況経過

2014年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は4月に1,146トン、5月に1,315トン、6月に644トンの計3,105トンでした。前年比590%、平年比249%と前年・平年を上回る漁でした。漁獲の主体はゴマサバで、サイズは尾叉長が34cm前後の2～3歳魚(2011～2012年生まれ)が主体でした。

なお、宮崎県では前年の107%、愛媛県では前年の570%、高知県では前年の553%の漁獲量となっています(2014年4～6月)。

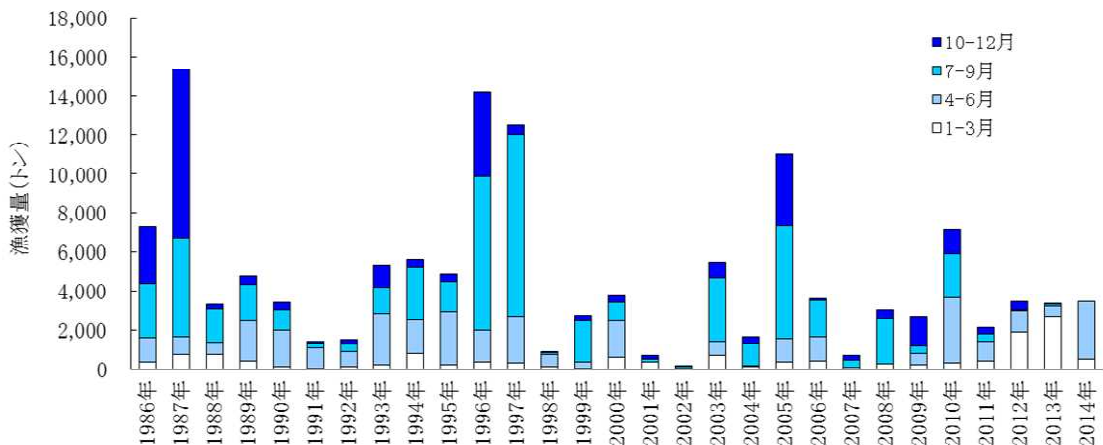


図9 さば類(マサバ・ゴマサバ)のまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通しく平成26年8～12月

### 来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2013年8-12月:177トン)



### 漁獲対象年級群及び体長:

近年の調査結果によれば、期間中は尾叉長20～30cm前後のゴマサバ0～1歳魚(2013～2014年生まれ)が主体となります。

### 【説明】

2014年1～6月における漁獲量は3,621トンと、近年同様高水準の傾向となりました。8～12月は主に0～1歳魚が漁獲の主体となりますが、0歳魚(2014年生まれ)のゴマサバ加入量水準は近年の平均程度と見込まれていることと、1歳魚(2013年生まれ)のゴマサバ推定加入尾数は近年の平均を上回る水準と予想されていることから(平成26年度第1回太平洋イワシ・マアジ・サバ等長期漁海況予報より)、期間中の漁獲に期待が持てます。また、前年の8～12月における漁獲量は177トンで、ここ10年間では最低の漁獲であったことから(10年平均1,741トン)、これを下回るのは考えにくいことも考慮し、来遊量は前年を上回ると予測しました。

## その他

### ■予測の根拠および参考資料

・平成26年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2014)

### ■用語解説

- ①被鱗体長 :体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 :ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

### ■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6  
電話:0972-32-2155  
FAX:0972-32-2156